

会派合同視察報告書

令和7年10月17日

大町市議会議長 傳刀 健 様

市民クラブ

中牧盛登

小澤悟

峻嶺会

一本木秀章

傳刀健

記

市民クラブ・峻嶺会 会派合同視察を下記の通り実施したので報告致します。

1. 期間：令和7年8月6日（水）から7日（木）まで（2日間）

2. 視察地及び視察事項

（1）福井県 大野市

「移住定住施策について」

「議会改革について」

「こども議会・高校生議会について」

大野へかえろう

(2) 福井県 池田町

「国民体育大会クライミング競技関係 施設跡地利用について」

(農村 de 合宿キャンプセンター)



(1) 福井県 大野市

「移住定住施策について」 「議会改革について」

「こども議会・高校生議会について」

日時：8月6日(水)13時30分から15時00分まで

大野市概要

福井県東部に位置する市（自治体）。奥越前の中心地で越前大野城の城下町として発展した都市である。1954年（昭和29年）市制施行。

福井県内の市町の中では最大の広さを持ち県面積のおよそ5分の1

を占める。

面積	872.43 ^{km²}
総人口	28,312 人

「移住定住施策について」

所感

(中牧 盛登)

大野へかえろう事業

は、平成 27 年度から国

庫補助等を活用し、4 年

移住定住への主な支援策

▶移住相談窓口の開設

- ・市外の移住希望者からの問い合わせに対応するため、庁内外の横断組織として「UUサポートチーム」を設画
- ・移住体験プログラムやワークステイ等の体験・案内を提供

▶就職活に対する支援

- ・移住就職等支援金の支給
- ・大野に移住するために行う就職活や住居探しに係る交通費等を支援

▶住まい確保への支援

- ・空き家情報バンクに登録のある物件の管理費等を補助
- ・移住者の住宅取得、リフォーム工事費用を補助
- ・結婚した世帯に対し、引越費用等の補助及び祝金を支給

▶移住情報の発信

- ・移住定住応援サイトを開設し、移住に関する情報を発信
- ・施策をパッケージ化し、支援策を見える化



間を一つの区切りとして、平成 30 年度で終了している。総事業費は、4 年間で 1 億 1 3 0 0 万円。この事業による効果は、若者や市民に対して、地元への愛着心の醸成などが効果として挙げられている。残念に思う事は国の補助金が切れるとともに事業を終了したことである。

結論 当市としても、若者や市民に対してもっと地元への愛着心や誇りに思うような事業の展開が必要ではないかと感じた。



実際に大野を出て、大野にかえってきた人たちの経験や仕事内容を紹介

(小澤 悟) 人口減少が進む中、多くの自治体が移住定住施策に取り組んでいるが現在住んでいる若者に対して、どうしたら当市に帰って住み続けたいと思えるまちづくりの必要性についての視点から視察を行った。大野市の数ある移住定住事業の中でも「大野へかえろう」事業は当市にも必要と感じる事業と感じた。

特になぜ若者が地元を離れる理由①地元の魅力を知らないまま、地元を出てい

く②地元の人とつながりが

ないまま、地元を出ていく

③地元での未来の切り開き

方を知らないまま、地元を

出ていく④大人たちが地元



大野市の日常の風景を写した写真集を成人式で配布

に誇りを持っていない。今当市は無いものを作るのではなく、今あるものを知り・誇りを持つこと、そしてそれを子供に伝える必要性があると感じた。

(一本木 秀章) 大野市は人口28312人、議員数16名 大町市とはほぼ同等な規模の市です。しかし、令和7年度の大野市の一般会計予算は204億9570万円と予算的には大町市を上回っています。大野市の企業は大企業は少なく、中小企業が多く、市の財政を支えている様に思える。

市庁舎や各施設などを見ると、財政面ではしっかりしている。

- ・移住定住施策について

「大野へかえろう事業」を通じて、市民全体が移住促進していて、実績を残している。

大野市は地元雇用があり、医療機関の充実や待機児童ゼロ、良い自然環境や農業など、移住に適した地域と言える。加えて各種支援の充実が移住者には人気があると考える。

(傳刀 健) 移住定住施策は多くの自治体で取り組まれているが、U ターンに特化した視線での取り組みということで「大野へかえろう事業」は非常に関心の高い事業である。

・立ち上げ当初国の補助金を受けて4年間で 113,000 千円ほど支出したようであるが、地元高校生を巻き込んだ企画や、卒業式や成人式における地元愛の刷り込みは、地方を離れる若者の心に深く刻まれることになると思う。現在は予算が



縮小し HP の管理程度のようなだが、折角立ち上げた楽曲等があるので、もっと活用すべきだと思った。・当市でも、高校卒業から大町を離れる若者は非常に多い。類似の取組をもって、地元愛を育んでいく必要がある。

「こども議会・高校生議会について」

(中牧 盛登) こども議会は、平成 27 年度から 30 年度にかけて、年に 1 度開催されている。市内の 10 小学校から 6 年生が一人ずつ選ばれ、市政に対する質問を行い答弁者は市長・副市長・教育長が行っている。参加者は、大野高校と奥越明成高校の 2 年生が 8 人参加し、市政に対する質問を行い、答弁者は大野市議会各常任委員長が行っている。



大野の高校生が自らの手で
地元のお店のポスターを制作した

・現在は、こども議会は・高校生議会ともに開催されていない。その理由は、こども議会は 4 年を区切りとしたことや教員の負担が大きいとのこと。高校生議会は、質問作成に生徒への負担が大きいためとしている。

結論 当市としても、高校生議会を開催する考えならば、質問等の作成に対する支援や、今後も高校生議会继续できるように細部にわたって検討すべきと考

える。

(小澤 悟) 当市の未来を背負う、こども達に議会や市の仕事についてどうやっ

1 子ども議会・高校生議会 実績	
子ども議会 質問者：市内10小学校から各1人 6年生 計10人 参加者：市長、副市長、教育長、 部長級、議員（オブザーバー） 答弁者：市長、副市長、教育長 第1回：平成27年8月21日 第2回：平成28年8月24日 第3回：平成29年8月18日 第4回：平成30年8月20日	高校生議会 質問者：大野高校、奥越明成高校の 2年生 計8人又は9人 参加者：議員18人 答弁者：常任委員会委員長 第1回：令和2年1月27日 (8人) 第2回：令和3年1月25日 (9人)

て関心をもっても

らえるかの視点で

視察を行った。こ

ども議会・高校生

議会ともに議会や

市の仕事を知って

もらうきっかけにはなると感じた。もし当市でも高校生議会を行うとすれば同

じ目線でこども達のサポートをしなければ続けられないと感じた。

(一本木 秀章) 子ども議会・高校生議会は素晴らしい取組みである。しかし

学校側、理事者側のスケジュール調整などが難しく、現在は中止しているとの事。

市の仕事や議会の仕組みの理解を深め、市政や議会への関心、町づくりに参加す

る意欲や地域への愛着などをもってもらうきっかけになる事ができるが、いざ

実行するとなると難しい点が多いが、やってみたい施策である。

(傳刀 健) 子ども議会は平成30年までに4回、高校生議会は令和3年までに

2回開催されたのみで現在行われていないということであるが、地元への愛着と、市政への関心を育む取り組みとしては効果のある取り組みであると思う。

・児童生徒や教員側への負担が大きいということのようであるが、いずれの議会もスケジュールがとてもタイトなため、負担が増しているように思われる。理事者、議会がともに取り組んでいけば継続できたようにも思われる。

・高校生議会にこだわらず、高校生の意見を聞いていくことは重要だと改めて思った。

福井県大野市「議会改革について」

(小澤 悟) 議会改革は市民の皆さんがより議会が身近に感じていただくためにも必要という視点で視察を行った。特に議会だよりの改革の必要性に感銘を

受けた。当市も議会改革を行うためにも議会の動きを読んでいただけるような工夫をしなければならぬと感じた。

市民に寄り添う議会の実現

に向けて(第18代大野市議会議員の議会改革)

令和7年8月時点

大野市議会基本条例第23条(議会改革の推進)において「**議会は、議会を活性化し、市民に開かれ、市民の視点に立った議会を実現するため、議会改革に継続的に取り組まなければならない**」と規定。

第18代の議員として以下のテーマを掲げて、議会改革に取り組んでおり、その進捗を取りまとめるとともに、今後の方向性を示す。

①議会報告会の開催

【目的】市民に開かれた議会の実現

(活動実績)

・令和7年7月から各地区の区長と地元議員の語る会において、議会活動の報告を行う時間を設けた。統一した報告事項として、直近定例会の各委員長報告の内容を報告。

・両常任委員会ともに令和6年度以降も関係団体等との意見交換会を開催。

・令和5年11月、常任委員会単位で関係団体等からの出席を得て、それぞれテーマに沿った意見交換会を開催した。

(今後の予定・検討事項)

✓ 地元議員のいない地区への議会報告の対応を検討する。

✓ 議場の活用を提案。長期休業中に家族単位での意見交換を実施してはどうか。

②政務活動費の公開

【目的】議員の政務活動の透明性確保

(活動実績)

・議会だよりNo.228(R6.7.25発行)で、ホームページに政務活動費収支報告書を公開していることを周知した。

・これまでの議員名+支出総額に代わり、令和5年度分から収支報告書を公開。

・令和5年11月20日の全協において収支報告書の書き方を統一するための記載例を示した。

(今後の予定・検討事項)

✓ 領収書を含めた公開については、オンライン提出や事務局の負担軽減とセットで検討してはどうか。

-1-

じた。議会改革の一つの議員報酬の引き上げには大変驚いた。市民目線で考えて

も、市民がよく納得されたと感じた。

(一本木 秀章) 「市民に寄り添う議会の実現」に向けて議会改革に継続的に取り組んでいる。

- ① 議会報告会の開催
- ② 政務活動費の公開
- ③ 議員活動の充実、強化
- ④ 議会活動の充実、見える化
- ⑤ 議員の環境整備
- ⑥ 議会の環境整備、デジタル化
- ⑦ 議会だよりのリニューアル

など各活動実績の報告があり、大町市議会でも各活動を参考に議会改革を進めていきたい。

(傳刀 健) 議会だよりを縦読みから横読みにしただけでも若い世代に受け入れられやすくなったのだと思う。表紙についても色味がやわらかで硬さがなく、手に取りやすいように感じられた。



・ハラスメント条項の追加や議会報告会の開催内容などについては、当市の方が先進しているように思う。

・議員の報酬現行 357,000 円（現在 387,000 円案を報酬審議会に上げている）が、大野市の人口、財政規模に対して非常に高額で驚いた。又政務活動費につい

市民に寄り添う議会の実現 に向けて（第18代大野市議会議員の議会改革） 令和7年8月時点	
<p>⑤議員の環境整備 【目的】議員のなり手不足解消</p> <p>（活動実績）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年8月5日に第1回特別職報酬等審議会が開催された。 ・令和7年4月に報酬審議会等に提示する議員報酬額等を市長に提出した。 ・議員報酬について議論を深めるためのPTを令和6年6月に設置し、報酬等審議会に提示する議員報酬額等について協議し、令和7年1月に議長に取りまとめ結果を報告した。 ・令和6年4月に特別職報酬等審議会開催依頼を市長に提出した。 ・令和7年3月の条例改正により、宿泊料が実費支給に改正された。日当は廃止となったが、宿泊手当の支給などが制度化され、令和7年度から運用を開始した。 	<p>⑥議会の環境整備、デジタル化 【目的】市民に開かれた議会の実現</p> <p>（活動実績）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本会議の動画中継について、令和6年6月定例会より生配信を開始した。 ・議員のタブレット端末活用について、令和4年7月議会では紙と併用、同年9月からは端末のみとし、令和4年度半年間における紙削減枚数を26万7105枚と公表した。 ・議会に関する情報はできる限り速やかにホームページに掲載することとした。 <p>（今後の予定・検討事項）</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ オンライン委員会開催や手続のオンライン化に向けた環境整備については、他市議会の状況を注視しながら検討していく。

ても月ごと
40,000 円という
ことで当市の 12
倍となる。当市に
おいても議員の
なり手不足の観

点からの報酬増や政務活動について充実を求める声がある。大野市ほどは無理

にせよ、今後、様々な声を聴きながら検討していきたい。

（２）福井県 池田町 ８月７日９時～１２時

「国民体育大会クライミング競技関係 施設跡地利用」「わくらボ」について

（農村 de 合宿キャンプセンター）



（池田町概要） 池田町は、福井県の嶺北地方に位置し、足羽川最上流部の岐阜県との県境にあります。町域の約９割は森林で、福井県でも有数の豪雪地帯です。伝統芸能の能楽や能面芸術の文化を受け継いでおり、特別豪雪地帯に指定されています。池田町は過疎地域自立促進特別措置法により過疎市町村に指定されており、2015年国勢調査では北陸地方３県の中で唯一、富山県の中新川郡舟橋

村を下回る人口最少の市町村となっています。

面積	194.65 ^{km²}
総人口	2,096 人 (<u>推計人口</u> 、2025 年 8 月 1 日)

所感

(中牧 盛登) 廃校利用施設(農村 de 合宿キャンプセンター)について

平成 22 年度に廃校となった池田第 3 小学校の利活用については、廃校から 2 年後に利活用検討委員会が設置され、平成 24 年・25 年と 2 年間かけて検討されている。その結果、平成 28 年に農村 d e キャンプセンターが開館。平成 29 年には、体育管内に福井県初となるスピード・リード・ボルダリング 3 種類のクライミング施設を整備し、宿泊棟も改築している。施設の管理運営は、令和元年に指定管理者で始まったが、2 年後には観光課が管理することとなり、令和 5 年から現在は、教育委員会の所感となった。管理費は職員の人件費や光熱水費等で赤字経営となっているなど、施設管理の厳しい状況が感じられた。

結論 視察した池田町は、廃校後 2 年が経過してから検討委員会を立ち上げ、

その利活用検討委員会は、スタジオLという地域づくりのプロに委託をして進



めてきた。(プロが2年かかっている)

当市も令和8年度から3校が廃校となり、加えて旧大町北高が現在廃校となっている状況である。当市として、利活用検討委員会はいつ設置されるのか、また、検討委員会は市直営で設置するのか、地域づくりのプロに委託した方がよいのか、多いに議論する余地があるということを、今回の視察で強く感じた。

廃校の小学校跡地を宿泊施設(合宿所)として活用されているという視線は面白い。しかし、指定管理者が2年程で撤退した現実を聞くと厳しい物があることを強く感じた。

(小澤 悟) 当市は令和 8 年度、小学校再編に伴い 3 校廃校になることが決まり、小学校の跡地利用の観点で視察を行った。「農村 d e キャンプセンター」はまちづくりのプロが行って 2 年かかったと伺い正直驚いた。当市でも廃校後のことは、これから議論されるので何年かかるのか心配に感じる。大町北高校も平成 28 年に廃校になってから手つかず状態であった跡地も、国スポが令和 10 年に行われることで、ボルダリングの会場にようやく決まったところである。当市の活性化の



為にも利活用検討委員会の素早い設置と行政だけではなくまちづくりのプロも入れ議論を進めるべきと感じた。「農村 d e キャンプセンター」の運営は少し厳しいと感じた(収支は赤字) のため。当市でも施設管理運営に関しては慎重に議論する必要があると感じた。

(一本木 秀章) 池田町人口2,174人 875世帯 33集落 森林率92% の小さな町です平成30年の福井国体のクライミング競技会場に、廃校にな



った小学校を整備して活用した。それを期に、農村de合宿キャンプセンターや、わくラボ（池田町地域産業等支援施設）を整備した。

池田町の廃校利用施設について・農村de合宿キャンプセンター廃校となった池田第三小学校を再利用し、「農村がキャンパス！風土が教科書！」をコンセプトに、池田町の自然環境、文化資源、人的資源などを感じ、「学び・鍛え・交わる」事が出来る合宿施設として整備されました。 大町市の北高をやまびこ国体のクライミング競技会場に整備する予定と聞いているが、国体が終わった後も利用できるような施設を造ってほしい。計画の段階から、コンセプトや活用計画をしっかり立てて、すばらしい施設を造ってほしい。

・わくラボ（池田町地域産業等支援施設）

池田町地域産業等支援施設

「わくラボ (WORK LABO)」について

山の緑に恵まれ、川の清らかさに恵まれ、空の高さに恵まれた、福井県今立郡池田町。自然豊かなこの場所で、新しい生き方を求めています。福井県池田町における多様な暮らし方および働き方創造を支援するために生まれた、「わくラボ」。元小学校の建物をリノベーションし、全く新しい施設として生まれ変わりました。町内町外、都市地方にこだわらず、この場所でこのオフィスで新しい働き方をご希望のみなさまに扉を開いてお待ちしております。



廃校となった池田小学校野尻分校を整備し、わくラボ（池田町地域産業等支援施設）が造られました。池田町で新たな挑戦をはじめる個人・団体・会社を応援する賃貸型オフィスとして整備されました。共用キッチン・無料 Wi-Fi などが整備大町市でもこれから、3 小学校が廃止され、再利用も未定である。

わくラボのような大型複合賃貸型オフィスを廃校の跡地利用として、大町市の活性化や移住促進に役立つのではないかと感じた。

(傳刀 健)標高が 200 メートル程度であっても、宿泊予約はとれるということだが、大町市では 750 メートル程度である。合宿受け入れに積極的に取り組むべきである。

・学校跡地の利用にあたっては、住民を巻き込んだ利用促進会議を直ちに開催して、廃墟とならないよう取り組んでほしい。

・「わくラボ」については、創業支援の視点から見ても非常に面白い取組である。

